

豊かな自然に囲まれた河川の利用 (カナダの運河)



企画・広報部 副参事 竹内 わこ

1. はじめに

平成12年8月の末、カナダ東部のオンタリオ州に位置する2つの運河を訪れる機会を得た。オンタリオ州は面積の70%近くが森林に覆われており、ここには五大湖のうちの4湖に加え何千もの湖が存在する。運河もこれら一帯に点在する湖とそこを流れる川を結んで形成されている。

今回は、まず始めにヒューロン湖とオンタリオ湖の間約400kmを結ぶトレント・セバーン運河を訪れ、ここからさらに下流に向かい、次にオンタリオ湖とオタワの間約200kmを結びセントローレンス川に並行して流れるリドー運河を訪れた。



写真 - 1 豊かな自然に囲まれたカナダの運河
(湖を利用している部分)

2. カナダの運河の変遷

カナダの運河では18世紀後半より木材の輸送手段として舟運利用が開始されたが、時代とともに物資の輸送手段は鉄道・車両へと移り変わり舟運利用は減少していった。

そしてついに今回訪れた運河は1970年代に入ると管理者である運輸省により運河閉鎖の計画が立てられてしまった。しかしこの時パークスカナダ(日本では「省」にあたり、国立公園や伝統的な文化・遺産の運営・管理を行う機関)では、運河には物資輸送の手段としての価値だけでなく、歴史的建造物としての価値があるとして運河を受け継ぎ、現在まで保存されている。さらに運河は、豊かな自然に囲まれた環境を活かし地域のレジャーや観光地としても広く親しまれている。

3. トレント・セバーン運河 (Trent-Severn Waterway)

トレント・セバーン運河は、ヒューロン湖のジョージアンベイからトロントの西、オンタリオ湖のクイントベイまで、200の湖と16の河川を結んだ全長386kmの運河である。その間に42箇所の閘門がある。

ここは、文化の発展に基づいた施設として運営・管理されており、近代的な施設となっている。ロックは全て油圧式・水圧式で電気によりゲートを開閉している。

4. リドー運河 (Rideau Waterway)

リドー運河は、首都オタワとオンタリオ湖畔のキングストンを結ぶ全長202kmの運河である。

ここは全部で40以上の閘門を持っており、今も昔ながらの手動式で動かされている。これは、運河の保存目的が歴史的な遺産として運営・管理されているためであり、近代化に伴い一度電動化された施設についても、再び手動式として作り直され、昔の施設形態に戻される整備がされている。



写真 - 2 近代的なロック
(トレント・セバーン運河)



写真 - 3 手動式のロック
(リドー運河)



写真 - 4 ゲート操作のためのウインチ。これはリドー運河のシンボルマークにもなっている

5. 運河の自然環境

運河は広大で緑豊かな森林地帯に位置しており、水際
の環境としては、大部分がカナディアン・シールドと呼
ばれる硬い岩に覆われた地域と、原住民であるイヌイト
の人達が食料として採取しているワイルド・ライス等
が生育する湿地帯とが見られ、自然豊かな環境となっ
ている。



写真 - 5 カナディアン・シールド 写真 - 6 湿地帯に広がる水生植物

しかし、近年開発された高速ボートによる航走波の影
響により岸が崩れてくるといった問題が生じている。さら
に、湖岸に張り付く別荘の開発が大規模化することによ
って岸がコンクリートにより固められ、ゆるやかな岸
がなくなることで、水生植物の育成が妨げられている他、
広い庭を確保するために多くの木を伐採することで、緑
が減少し、流出土砂の増加にもつながっている。

これら湖岸の民地開発については、行政により自然豊
かな環境をできるだけ残そうといった内容の啓発パンフ
レットの作成がされている。また、運河には独立した民
間の協会が設置されており、ここでは湖岸の自然を再生
させる活動を積極的に行っている。

その他、運河の維持管理の実施期間においても生態系
への配慮がされている。政府により、生育する魚の産卵
を保護するため3月中旬～6月末の水中工事を禁止する
規制が行われており、この期間の水中工事は実施されて
いない。

また、水質悪化も近年問題となっており、これに対し
ては農業手法の改善や適正な排水処理の促進、別荘など
個人的な施設の排水方法の改善（浄化槽の設置）、リン

を含まない石鹼の普及、汚水処理レベルの向上の推進な
どを行った。これらの対策によりここ10年で水質は改善
されているが、以前になめし革工場や軍需工場より排出
されたPCBが湖底に沈殿・堆積している問題などは現
在も的確な対応策が見つかっていない。

水質については、主に生物学の専門家によってしっか
りした監視活動が行われている。

6. おわりに

「湯水のように使う」という言葉はもう古い、今では
水は貴重な資源の一つとなり、日本でも節水があたりま
えの時代となってきた。今回、このように貴重な資源と
なってしまった水を豊富に有するセントローレンス川の
上流部の地域を訪れ、運河を利用することで水の中から
これらの環境を知ることができた。

運河は、森の中にある湖とそれらをつなぐ水路により
成り立っている。湖には数々の島々が浮かび、運河の周
囲は緑豊かな広大な大地、美しく雄大なカナダの自然が
広がっていた。

これらの運河は、現在、歴史的施設としてパークスカ
ナダにより維持管理されているが、「歴史的施設」とい
っても、ここでは施設を物として保存するだけではなく、
それを現在でも利用しているため、道具は使われること
により生き、それらを維持管理することによって技術の
伝承にもつながっている。そして、昔の施設をそのまま
利用している運河は電力に頼らないため省エネルギーで
あり、人力で事を成すため多くの人の手が必要となり人
の雇用にもつながっていくと考えられる。さらに、施設
の中に人が多くなることにより、そこには活気が生まれ、
人と人とのふれあいが生まれる。人の心と自然にやさし
い、カナダの運河だった。

ここでは、物資の輸送用に建設された運河を、その利
用が廃れた後に自然環境を大切にしながらレクリエーシ
ョンとしての利用をはかることで、運河をうまく利用・
保全し続けていた。

